

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	DPI403H 卒業研究A			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	清水 斉,荒木 秀夫,福田 由美子,岩井 哲,山西 央朗,貞末 和史,栗崎 真一郎,川上 善嗣,坂本 英輔,中西 伸介,金子 治,建築未定 1,建築未定 2						
研究室	N2-210-2	メールアドレス	h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 専門教育科目や専門ゼミナールを通じて修得してきた知識を用い、大学生生活の総まとめとして自分が研究したい研究テーマを決定し、学生自身が調査と研究を進め、問題の発見と解決する能力を培う。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP1(知識・理解)	D(1)	建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。
DP1(知識・理解)	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。
DP2(思考・判断)	D(3)	建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。

〔履修条件〕 特になし

〔キーワード〕 調査 研究 問題発見 解決能力

〔履修上の留意事項〕 自分が研究したいテーマについて熟考して所属する研究室を決定すること

〔授業計画〕

〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
担当教員が、専門教育科目の4つの分野(構造、生産・維持管理・材料、計画、環境・設備)に関連したテーマを設定し、卒業研究を行う。	首藤 治久,荒木 秀夫,岩井 哲,川上 善嗣,栗崎 真一郎,建築未定 1,坂本 英輔,貞末 和史,清水 斉,中西 伸介,福田 由美子,向山 徹,山西 央朗	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。事前:1400分	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。事後:1400分

〔到達目標,比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(1)	建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。	30%
D(2)	建築に関する最新の技術を修得するだけでなく、その背景となる歴史・文化・風土を学び、活用する豊かな創造力を身に付けている。	30%
D(3)	建築技術者としての思考能力を育成することによって、建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題を解決する能力を構築できる。	40%

〔評価種別,比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
レポート	60%
プレゼンテーション	40%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標に達成し、それ以上の意欲が見られる。
A:到達目標を十分に達成している。
B:到達目標に達成している。
C:到達目標に最低限達成している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕

〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
指導教員の指定するもの				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕

〔手法〕	〔実施授業回等〕
プレゼンテーション	定期的を実施する
実習、フィールドワーク	定期的を実施する

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	DPI404H 卒業研究B			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	清水 斉,荒木 秀夫,福田 由美子,岩井 哲,山西 央朗,貞末 和史,栗崎 真一郎,川上 善嗣,坂本 英輔,中西 伸介,金子 治,建築未定 1,建築未定 2						
研究室	N2-210-2	メールアドレス	h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 専門教育科目や専門ゼミナールを通じて修得してきた知識を用い、大学生生活の総まとめとして自分が決定した研究テーマについて、学生自身が調査と研究を進め、問題の発見と解決する能力を培う。成果を論文・設計としてまとめて、卒業研究発表会において発表する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP3(技能・表現)	D(6)	建築に関する知見と情報を具体的に図化、言語化することができ、様々な表現方法を活用して、他者に説明することができる。
DP2(思考・判断)	D(4)	建築技術者として直面する様々な課題に対して、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。
DP3(技能・表現)	D(5)	指導的立場となるにふさわしい協調性とリーダーシップを発揮できる技能を身に付けている。

〔履修条件〕 特になし

〔キーワード〕 調査 研究 問題発見 解決能力

〔履修上の留意事項〕 自分が研究したいテーマについて熟考して所属する研究室を決定すること

〔授業計画〕

〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
担当教員が、専門教育科目の4つの分野(構造、生産・維持管理・材料、計画、環境・設備)に関連したテーマを設定し、卒業研究を行う。	首藤 治久,荒木 秀夫,岩井 哲,川上 善嗣,栗崎 真一郎,建築未定 1,坂本 英輔,貞末 和史,清水 斉,中西 伸介,福田 由美子,向山 徹,山西 央朗	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。事前:1400分	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。事後:1400分

〔到達目標,比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(4)	建築技術者として直面する様々な課題に対して、自分で考え判断することによって、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。	30%
D(5)	建築に関する実験等の実践的学習を通して、協調性とリーダーシップを発揮できる指導的立場となるにふさわしい技能を獲得している。	30%
D(6)	建築に関する知見と情報を具体的に図化、言語化できるとともに、様々な表現方法を活用して、他者への説明能力を醸成している。	40%

〔評価種別,比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
卒業論文・卒業設計	100%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標に達成し、それ以上の意欲が見られる。
A:到達目標を十分に達成している。
B:到達目標に達成している。
C:到達目標に最低限達成している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕

〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
指導教員の指定するもの				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕

〔手法〕	〔実施授業回等〕
プレゼンテーション 実習、フィールドワーク	定期的実施する 定期的実施する

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	生産・維持管理・材料	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	CAC302S 建築施工管理			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	清水 斉						
研究室	N2-210-2	メールアドレス	h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 設計された建築物を具現化させるのが施工である。施工は、物づくりの原点でもある。建築の施工においては、安く速く質の良いものを作ることが必須条件となる。このために、建築施工に携わる技術者は、コスト・工期工程・品質・安全などの各項目について目的と要求に応じた管理をすることになる。本講座は、上記の管理項目について後述し、建築に携わるすべての技術者にとって必要不可欠な知識を修得することを目指す。建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP3(技能・表現)	D(6)	建築に関する知見と情報を具体的に図化、言語化することができ、様々な表現方法を活用して、他者に説明することができる。
DP4(関心・意欲・態度)	D(7)	誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。
DP1(知識・理解)	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。
DP2(思考・判断)	D(4)	建築技術者として直面する様々な課題に対して、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。
DP3(技能・表現)	D(5)	指導的立場となるにふさわしい協調性とリーダーシップを発揮できる技能を身に付けている。
DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。

〔履修条件〕 この授業を学ぶ前に、建築生産を履修する。建築施工系授業のまとめとなり、実際の建築施工管理に通じるものである。

〔キーワード〕 建築原価管理 品質管理 工程管理 安全環境管理 現場運営

〔履修上の留意事項〕 座学が基本であるが、実際の施工状況などの確認のため現場見学を取り入れる。また実務に通じる講義をめざし、予算管理・施工図・計画図などの演習を行う。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス、建築生産のしくみ	清水 斉	100分 教科書の準備・全体像の把握	100分 配布資料を熟読し、講義の概要を理解する。
第2回	施工計画(工程計画, 工法計画) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第2章施工計画を予習し、施工計画の概要を知る	100分 施工計画図書の理解を深める
第3回	工程管理(ネットワーク工程表) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第3章工程計画を予習し、工程管理の意味を考える	100分 工程管理の手法の理解を深める
第4回	品質管理(概要) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第4章品質管理を予習し、品質管理の概要を知る	100分 品質管理の手法と内容を理解する
第5回	原価管理1(建築工事原価) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第5章原価管理を予習し、原価管理の意味を考える	100分 優良企業のあり方を理解する
第6回	原価管理2(実行予算書) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 実行予算書の必要性を考える	100分 建築価格・要素分解について理解を深める
第7回	安全管理1(建設災害防止) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第6章安全管理を予習し、建築現場での安全性の必要性を考える	100分 建築業界の労働災害について理解を深める
第8回	安全管理2(統括管理) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 建築の安全管理の概要を知る	100分 具体的な安全管理手法、統括管理・日常管理の具体的な内容を理解する
第9回	現場運営(施工管理を円滑にするために) 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第7章現場運営を予習し、現場運営の概要を知る	100分 現場運営の具体的な項目の内容と意味を深める
第10回	工事の準備・仮設設備 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第8章工事の準備・第9章仮設を予習し建築工事における重要性を知る	100分 工事の準備・仮設の重要性を知るとともに、具体的な内容を理解する
第11回	土工事・基礎工事の品質管理 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第10章土工事・第11章基礎工事の内容を知る	100分 土工事・基礎工事のトラブル事例を知り具体的な品質管理手法の理解を深める
第12回	鉄筋コンクリートの品質管理 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第12章鉄筋コンクリートの概要を知る	100分 鉄筋・型枠・コンクリートの品質内容の理解を深める
第13回	鉄骨工事の品質管理 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第13章鉄骨工事の概要を理解する	100分 鉄骨工場加工・現場建方の品質管理の理解を深める
第14回	外装・内装工事の品質管理 設備工事と建築工事の調整 建設会社での実務経験を有する教員が、その経験を生かして、施工管理について講義する。	清水 斉	100分 第14章外装工事・第15章内装工事・第16章設備工事と建築工事の調整を予習し、その概要を知る	100分 防水工事・外装工事の管理のポイントの理解を深める 建築工事と設備工事の関連性を充分理解する

〔到達目標, 比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(2)	建築生産の管理運営に関する基本的な知識や技術を活用できる。	25%
D(4)	施工管理の詳細を知り、解決策を提案できる。	25%
D(5)	実務的な学習を通して指導的立場への準備ができています。	15%
D(6)	予算管理・施工図・計画図などを作成できる。	10%
D(7)	建築技術者としての責任感・倫理観を身に付けている。	15%
D(8)	建築技術者としてマネジメントに意欲や関心を持つ。	10%

〔評価種別, 比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
試験	60%
レポート	20%
演習	20%

〔評価及び評価基準〕 「@」: 施工管理項目を責任感・倫理観を持ってマネジメントすることができる
「A」: 施工管理項目を人に教えることができる
「B」: 施工管理項目を利用することができる
「C」: 施工管理項目が理解できる
「D」: 未到達不合格

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 レポート及び演習の返却時に講評を行う。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕

〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
建築施工	内田祥哉	市ヶ谷出版社	2009	4-87071-126-5 C3052

〔参考書〕

〔能動的学習の〔手法〕
授業手法〕 実習、フィールドワーク
その他

〔実施授業回等〕
積極的に建築現場を見学し、意見を発表する
DVDによる視聴覚教育

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 一級建築士、二級建築士、木造建築士

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSF242H 建築キャリアデザインB			履修区分	必修	単位数	1
担当者名	山西 央朗, 中西 伸介						
研究室	N2-210-1	メールアドレス	t.yamanishi.ev@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 1級建築士試験の内容に向けての演習を行い、1級建築士取得レベルの知識を身に付ける。
建築工学科で技術的な領域別に学習してきた専門諸学の知識を実践的・総合的に復習し、習得してきた知識を相互に関連付け、体系化できる理解力を身に付ける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP1(知識・理解)	D(1)	建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。
	DP1(知識・理解)	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。
	DP2(思考・判断)	D(3)	建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。

〔履修条件〕 建築に関する専門分野(建築設備, 建築構造)の基礎知識を習得していること。

〔キーワード〕 建築設備, 建築構造

〔履修上の留意事項〕 ノートPCを持参する。
指定のURLから資料を入手すること。
関連資料を配布するので各自ファイリングし、授業に持参すること。
単位取得には、全出席が基本である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス 建築設備1 ・換気	清水 斉	50分 建築生産の教科書を熟読しておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第2回	建築設備2 ・伝熱, 結露	清水 斉	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第3回	建築設備3 ・音響	清水 斉	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第4回	建築設備4 ・空調和設備	清水 斉	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第5回	建築設備5 ・給排水衛生設備	建築未定1	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第6回	建築設備6 ・電気, 輸送設備	建築未定1	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第7回	理解度確認テスト	建築未定1	50分 これまでの授業内容を復習する。	50分 これまでの授業内容を復習する。
第8回	建築構造1 ・構造物の安定, 静定構造物の応力	建築未定1	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第9回	建築構造2 ・応力度, 変形	建築未定1	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第10回	建築構造3 ・構造計画	建築未定1	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第11回	建築構造4 ・基礎構造, 擁壁	建築未定2	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第12回	建築構造5 ・鉄骨構造	建築未定2	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第13回	建築構造6 ・鉄筋コンクリー構造	建築未定2	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。
第14回	建築構造7 ・木質構造	建築未定2	50分 教科書の指定箇所を熟読しておくと共に、専門用語や不明な用語を調べておく。	50分 授業内容についてノートに要約し、復習を行う。

〔到達目標, 比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(1)	建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。	25%
	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。	25%
	D(3)	建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。	25%
	D(8)	社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。	25%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	小テスト	25%
	期末テスト	25%
	課題	50%

〔評価及び評価基準〕 @:課題にきわめて熱心に取り組み、きわめて優秀な成績をおさめている。
A:課題に熱心に取り組み、優秀な成績をおさめている。
B:課題に熱心に取り組み、十分な成績をおさめている。
C:課題に取り組み、一定の成績をおさめている。
D:未達成(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	資料配布				
〔参考書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	一級建築士過去問題集				

[能 動 的 学 習 の [手 法] [実 施 授 業 回 等]
授 業 手 法] eラーニング 4回, 10回
[授 業 改 善 点 等] なし
[関 連 す る 資 格] 1級建築士, 1級建築施工管理技士, 2級建築士, 2級建築施工管理技士
[備 考]
[参 考 U R L]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSl122H 技術者倫理			履修区分	必修	単位数	1
担当者名	清水 斉,金子 治,建築未定 1,建築未定 2						
研究室	N2-210-2	メールアドレス	h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 本講義では、建築技術者として獲得しなければならない倫理観について、4名の教員がそれぞれ2回ずつ担当して多角的な視野に立った講義を行い、対人関係が複雑となる建築分野の中で、自身の倫理観を養うことができる。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP4(関心・意欲・態度) D(7) 誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。
DP4(関心・意欲・態度) D(8) 社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。

〔履修条件〕 1年時で受講した、「社会・環境・倫理」並びに「人権論」を復習しておく。

〔キーワード〕 社会倫理、ヒューマニズム、法令遵守

〔履修上の留意事項〕 3名の教員が順番に担当して講義を行う。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	受講ガイダンス	首藤治久	0分 特になし	200分 教科書全般について目を通す
第2回	企業のコンプライアンス問題 企業の社会的犯罪について 社会の倫理と個人の倫理	首藤治久	100分 教科書第2章を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる
第3回	第8章 技術の利用に伴うリスク管理に関する事例 事例1. 生コンの加水	清水斉	100分 教科書第8章事例1を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる
第4回	第8章 技術の利用に伴うリスク管理に関する事例 事例2. コンクリートのひび割れ	清水斉	100分 教科書第8章事例2を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる
第5回	第9章 法令順守・説明責任に関する事例 事例1. 労災隠し	金子治	100分 教科書第9章事例1を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる
第6回	第9章 法令順守・説明責任に関する事例 事例2. 漏水対策と設計・工事監理者としての倫理的立場	金子治	100分 教科書第9章事例2を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる
第7回	第10章 倫理的意思決定に関する事例 事例1. 設計チームの過労死	清水斉	100分 教科書第10章事例1を予習する	100分 講義中で論議された問題について整理し、自分の意見をまとめる

〔到達目標,比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(7) 誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。 50%
D(8) 社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。 50%

〔評価種別,比率〕 [評価種別] [比率]
レポート 100%

〔評価及び評価基準〕 @:建築技術者として、直面する倫理的課題に対して柔軟に対応できる責任感と倫理観を持って行動する素養と、社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に着けることに十分な意欲と関心を持つことができる。
A:建築技術者として、直面する倫理的課題に対して責任感と倫理観を持って行動する素養と、社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に着けることに意欲と関心を持つことができる。
B:建築技術者として、直面する倫理的課題に対して、社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に着けることに意欲と関心を持つことができる。
C:建築技術者として、直面する倫理的課題に対して、倫理観と責任感を身に着けることに意欲と関心を持つことができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
日本建築学会の技術者倫理教材 日本建築学会 日本建築学会 2014 978-4-8189-2232-7

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
グループワーク 7回

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 一級建築士、二級建築士、木造建築士

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSI123S 知的所有権			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	土取 功						
研究室	23-305	メールアドレス	i.tsuchitori.p5@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 特許等に代表される知的所有権(以下「知的財産権」)は、経済のグローバル化の進展と知識型社会への移行に伴って、その重要性は益々、高まっている。国の政策も知的財産権は経済成長の原動力という認識のもとに、その権利取得に向けた様々な振興奨励策が打ち出されている。本科目は、技術開発や製品開発等を行った際の成果を知的財産として保護し活用するための処方を学ぶもので、将来遭遇する「知的財産権」に関する課題に対処ができるようになる。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP4(関心・意欲・態度)	D(7)	誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。
DP1(知識・理解)	D(1)	建築を理解する上で必要な数学・物理等の基礎的知識を有し、それを建築技術に関わる専門知識に応用・展開することができる。
DP2(思考・判断)	D(4)	建築技術者として直面する様々な課題に対して、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。

〔履修条件〕 無し

〔キーワード〕 特許, 実用新案, 商標, 意匠, 著作権, 不正競争防止法, 種苗法

〔履修上の留意事項〕 知的所有権については、それらが活用された商品・製品が身の回りには多くあり、自ら興味を持って知識習得することが大切である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	知的財産権の特徴と保護の必要性 知的財産法の体系及び全体概要	土取 功	100分 教科書「知的財産権」の1.に目を通し、知的財産とはどういうもので、なぜ保護するのかを調べておく。	100分 知的財産基本法の内容と特徴、そして知的財産法の全体の体系及び個別の知的財産法の概要を把握・理解する。
第2回	特許制度の目的と保護対象 特許を取得するための要件	土取 功	100分 教科書の2.を熟読し、特許とは何か、特許制度の概要を理解し、空欄部分を調べ、考えてみる。	100分 特許制度の保護対象、登録要件、新規性喪失の例外規定等を習得し、参考書にも目を通して重要事項を理解する。
第3回	発明の種類 特許を受ける権利 職務発明制度	土取 功	100分 教科書の3.に目を通し、発明にはどのようなものがあって、誰が権利を持ち、組織の中での発明はどうなるのか概要を把握する。	100分 発明の種類と特許庁の認識、特許の権利者等を理解し、現行の職務発明制度を習得する。参考書にも目を通しておく。
第4回	特許出願, 出願公開, 審査請求 方式・実体審査への対応 査定に対する対応 特許権の維持・消滅と利用方法	土取 功	100分 教科書の4.と5.及び参考書の関係部分を熟読し、必要書類、手続き、出願方法等を把握し、審査・査定等への対応の特許出願の手続フローとともに理解する。	100分 国内優先権制度、出願公開制度等を理解し、審査結果、査定結果に対する対応の要点を理解する。特に拒絶査定に対する対応等や、他人の特許を阻止する方法も理解しておく。
第5回	特許請求の範囲・明細書等とその書き方	土取 功	100分 教科書4.-6の特許請求の範囲と7の明細書を熟読し、前者の重要性を認識するとともに書き方や注意点等を事前に把握しておく。	100分 特許請求の範囲をどのように書けば広い権利が表現できるか、また、技術の思想化とはどういうことなのか、を習得する。
第6回	特許権の効力 特許の技術的範囲 特許権の効力の例外	土取 功	100分 教科書の6.を熟読し、特許権の効力、技術的範囲、効力の制限について概略を把握する。	100分 特許権の技術的範囲の問題を理解し、均等論や特許権の個別的制限の要点を習得する。
第7回	特許権の侵害と救済, 審判, 罰則 外国への出願	土取 功	100分 教科書の7.に目を通し、特許権の侵害とその救済(対処)、外国へ特許出願する場合の概要を把握する。	100分 特許の直接・間接侵害と救済、審判、罰則等を把握し、外国出願の2つの方法、手順や内容等を習得する。
第8回	実用新案制度 意匠制度	土取 功	100分 教科書の8.と9.に目を通し、実用新案制度の概要、意匠制度の内容や特徴等を把握する。	100分 実用新案制度の特徴、活用方法を把握しておく。また、意匠の保護対象、登録要件、特殊な意匠登録、外国への出願方法等を理解し、意匠権の特殊性や効果的な使い方を理解する。
第9回	商標制度	土取 功	100分 教科書の10.の商標制度に目を通し、商標の種類、構成、登録要件等の概要を理解し、特殊な商標や地域団体商標、外国出願方法等の概略を把握する。	100分 商標制度の要点、経済的機能等を理解し、各種商標の効果的な使い方と類似性等についても理解する。
第10回	産業財産権情報の調査と利用	土取 功	100分 教科書の11.と参考書の関係項目に目を通し、産業財産権情報としてどのようなものがあり、その調べ方の概略を把握する。	100分 卒業研究や興味ある技術の特許、企業の取得特許等についてJ-PlatPatで検索調査を行い、レポート提出する。
第11回	著作権	土取 功	100分 教科書の12.に目を通し、著作権法の目的、著作物とは何か、著作権の体系と権利の種類等を把握し、技術とも無関係ではないことを認識する。	100分 著作権の個別権利、関係する部分等を理解し、著作権が活用されている事例を参考にしながら、その権利も拡張傾向にあることを認識する。
第12回	不正競争防止法 種苗法(育成者権)	土取 功	100分 教科書の13.に目を通し、不正競争防止法と種苗法の概略を把握する。空欄部分を参考書で調べてみる。	100分 不正競争防止法は身近な問題等に関係していることを認識し、各不正行為の内容を理解する。種苗法はその主旨、品種登録の要件等を理解する。
第13回	知的財産権のまとめ(事例演習)	土取 功	100分 これまで学習してきた知的財産権のそれぞれについて、保護対象、登録要件他の特徴等を整理、確認しておく。	100分 事例演習した結果を復習・整理し、まとめておく。

[到達目標, 比率]	[DP]	[到達目標]				[比率]
	D(1)	知的財産権の主旨や全体概要(体系)を説明できる。				40%
	D(4)	知的財産権の取得に向けた書類の作成ができる。				40%
	D(7)	知的財産権の取得まで、特許庁等からの通知、査定等に対応できる。				20%
[評価種別, 比率]	[評価種別]					[比率]
	授業への積極性					20%
	期末試験					80%
[評価及び評価基準]	@:知的財産権の全体について理解し、利活用できるレベルにまで習得している。 A:知的財産権の大部分の内容について要点を理解し、説明できる。 B:知的財産権の主要部分の内容について説明できる。 C:知的財産権の一部の内容について説明できる。 D:未到達(不合格)					
[課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法]						
[科目GPA及び評価分布]	この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。					
[教科書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権		自作			
[参考書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権制度入門		特許庁			
[能動的学習の授業手法]	[手法]	[実施授業回等]				
	ミニッツ・ペーパー グループワーク 質問法	4回程度実施する。 第13回の期末まとめのときに実施する。 授業の中で随時、実施する。				
[授業改善点など]	授業アンケートで板書した文字の中に分かりにくい字がある。 【改善点】漢字ではないかと思われるが、注意して板書するように努める。					
[関連する資格]						
[備考]						
[参考URL]						

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	計画	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	PAP105S 都市計画			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	福田 由美子, 岩井 哲						
研究室	20-409	メールアドレス	y.fukuda.bv@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 建築物は街区を形成する社会的な性格を持っている。本科目は、現代の都市を概観し、都市の考え方や制度の概要を理解すること、また、将来起こる可能性のある災害の脅威から建築物や市民生活を守る防災・減災の方法について理解することを目的とする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP4(関心・意欲・態度)	D(7)	誠実で人間性豊かな人材となる素養を有し、建築技術者として、いかなる状況においても責任感と倫理観をもって行動できる。
	DP1(知識・理解)	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。
	DP2(思考・判断)	D(3)	建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。
	DP3(技能・表現)	D(5)	指導的立場となるにふさわしい協調性とリーダーシップを発揮できる技能を身に付けている。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	社会と環境に配慮した倫理観と責任感を身に付け、「社会に奉仕する」技術者として成長していくことに意欲と関心を持つことができる。

〔履修条件〕 本科目は「建築計画A」「建築計画B」と関連する部分があり、これらを履修していることが望ましい。

〔キーワード〕 社会 都市施設 制度 事業 自然災害 防災

〔履修上の留意事項〕 毎時間、前回の内容を問うテストを行うので、必ず復習をして講義に臨むこと。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス 都市の見方と都市計画の役割 課題(都市計画レポート)の説明	福田 由美子	50分 「建築計画A」「建築計画B」の復習しておく	150分 課題で出された都市についての概要を調べる
第2回	都市の成り立ちと近代都市計画の流れ	福田 由美子	60分 「建築史」「建築意匠・技法」の復習しておく	140分 教科書第1章, 第2章を読み理解を深める
第3回	都市計画の制度と都市計画マスタープラン	福田 由美子	60分 前回の内容を復習しておく	140分 教科書第3章, 第13章を読み理解を深める
第4回	土地利用計画と建築行為のコントロール	福田 由美子	60分 前回の内容を復習しておく	140分 教科書第4章を読み理解を深める
第5回	市街地開発・再開発	福田 由美子	60分 前回の内容を復習しておく	140分 教科書p.143-150を読み理解を深める
第6回	交通計画	福田 由美子	60分 前回の内容を復習しておく	140分 教科書第5章を読み理解を深める
第7回	都市の景観	福田 由美子	60分 前回の内容を復習しておく	140分 教科書第11章を読み理解を深める
第8回	都市の魅力と課題についてのグループワーク(1)	福田 由美子	100分 五日市地区の魅力と課題について考えてくる	100分 五日市地区への提案の可能性について検討する
第9回	都市の魅力と課題についてのグループワーク(2)	福田 由美子	60分 五日市地区の魅力と課題について考える	140分 自分のグループの提案内容と他のグループ提案内容を比較し考察する
第10回	災害と都市防災の状況	岩井 哲	100分 2011年東日本大震災, 日本の災害の状況について, 調べて	100分 課題レポート(第1)のための資料読みを行う
第11回	地震災害について	岩井 哲	100分 1995年兵庫県南部地震による建物被害について, 調べておく	100分 課題レポート(第1)のための資料読みを行う
第12回	地盤災害について	岩井 哲	100分 広島豪雨災害について, 調べておく	100分 課題レポート(第2)のための資料読みを行う
第13回	都市防災の今後の課題	岩井 哲	100分 防災学検定, 都市防災の今後について, 調べておく	100分 防災学検定の解答を振り返る
第14回	都市計画レポートの発表	福田 由美子	100分 発表練習しておく	100分 レポート内容や発表の仕方について, 他の発表と比較し自己評価を行う

〔到達目標, 比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	都市計画の対象となる都市や地域の事象, 都市災害の特徴を理解する	20%
	D(3)	制度, 施策等都市計画の基礎的枠組みを理解する	40%
	D(5)	グループで時間内に課題をまとめ発表できる	10%
	D(7)	防災に対する意識を強く持ち, 防災対策に応用できる	20%
	D(8)	建設業と関わる社会環境について関心を持つ	10%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	提出物	80%
	防災学検定	10%
	グループワーク	10%

〔評価及び評価基準〕 @:都市計画の考え方や制度および都市災害の構造と特徴について十分理解し, かつ具体的な事業と基礎的な用語について説明できる。
A:都市計画の考え方や制度および都市災害の構造と特徴についてある程度理解し, 具体的な事業について部分的に説明できる。
B:都市計画の考え方や制度および都市災害の構造と特徴についてある程度理解し, 基礎的な用語を説明できる。
C:都市計画の考え方や制度および都市災害の構造と特徴について部分的に理解し, 基礎的な用語の一部を説明できる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験, レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕 第3版 都市計画 配付資料	〔著者名〕 川上光彦	〔発行所〕 森北出版	〔出版年〕 2017	〔ISBN〕 9784627496132
〔参考書〕	〔タイトル〕 新都市計画総論 みんなの都市計画 防災白書	〔著者名〕 佐藤圭二+杉野尚夫共著 脇田祥尚	〔発行所〕 鹿島出版会 理工図書 内閣府(編集)	〔出版年〕 2003 2011	〔ISBN〕 4306072363 9784844607434

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕 質問法 Problem-Based Learning KJ法 ミニッツ・ペーパー プレゼンテーション	〔実施授業回等〕 第1~7回で実施 第8~9回で実施 第8~9回で実施 第1~7回, 第10~13回で実施 第14回で実施
--------------	--	--

〔授業改善点など〕 より理解を深めるために, グループワークの課題や方法を改善する

[関連する資格]

[備 考]

[参 考 U R L]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	計画	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	PAP306S 建築設計演習			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	建築未定1,今井 信博						
研究室		メールアドレス	kyoumu@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 3年次までの設計製図は、細かく与えられた条件を基に設計を行っていた。本授業では、社会的現状や文化的問題を意識し、建築を通してそのことをテーマ化し空間化することを重視する。すなわち自らの問題意識とそれに基づくアイデアを広く社会に提案する能力を学習することを目的とする。また、その問題設定から空間を創造していく為の、環境・素材・工法・造形等の手法についても適宜学んでいく。いずれにしろ、個々の主体的な取り組みが必要不可欠となる。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP3(技能・表現)	D(6)	建築に関する知見と情報を具体的に図化、言語化することができ、様々な表現方法を活用して、他者に説明することができる。
DP1(知識・理解)	D(2)	建築に関する最新の技術及びその背景となる歴史・文化・風土を理解し、豊かな創造力をもって、それを活用できる。
DP2(思考・判断)	D(3)	建築に関する安全性、機能的性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。

〔履修条件〕 建築基礎図学、建築製図法、建築設計製図Ⅰ、建築設計製図Ⅱ、建築総合設計製図を受講していることが望ましい。

〔キーワード〕 設計テーマの構築、設計ルールの構築、設計表現の構築、試行錯誤

〔履修上の留意事項〕 発展学習であるが、卒業研究で設計を行うものは、受講することが望ましい。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンスー建築の設計について(講義)	栗崎,X3	50分 卒業研究のテーマを整理しておく。	50分 講義内容の復習。次回即日設計のテーマに即した事例調査・基礎資料調査。
第2回	課題1(即日設計)ー住宅(構造:木造軸組)ープレゼン作成	栗崎,X3	50分 即日設計のテーマに即したイメージづくり。	50分 次回即日設計のテーマに即した事例調査・基礎資料調査。
第3回	課題2(即日設計)ー美術館(構造:鉄筋コンクリート造)ープレゼン作成	栗崎,X3	50分 即日設計のテーマに即したイメージづくり。	50分 次回即日設計のテーマに即した事例調査・基礎資料調査。
第4回	課題3(即日設計)ー学生ホール(構造:鉄骨造)ープレゼン作成	栗崎,X3	50分 即日設計のテーマに即したイメージづくり。	50分 次回即日設計のテーマに即した事例調査・基礎資料調査。
第5回	課題4(即日設計)ーレストラン(構造自由)ープレゼン作成	栗崎,X3	50分 即日設計のテーマに即したイメージづくり。	50分 次回即日設計のテーマに即した事例調査・基礎資料調査。
第6回	課題5(即日設計)ー都市公園と公共建築(構造自由)	栗崎,X3	50分 即日設計のテーマに即したイメージづくり。	50分 今までの課題の未完成部分など、見直ししながら完成させる。
第7回	6課題の説明ー講義(事例、プレゼンの方法)	栗崎,X3	50分 即日設計の中の作品のプレゼンテーションの練習。	50分 課題に対する自己テーマの設定。
第8回	エスキス1	栗崎,X3	50分 エスキスを進める。	50分 エスキス指導を受けた内容を加えて案の検討を進める。
第9回	エスキス2	栗崎,X3	50分 エスキスを進める。	50分 エスキス指導を受けた内容を加えて案の検討を進める。
第10回	エスキス3	栗崎,X3	50分 ドローイングを進める。	50分 ドローイングを進める。
第11回	エスキス4(中間発表)	栗崎,X3	50分 A1枚に、今までの検討した内容をまとめ、プレゼンテーションの練習。	50分 プレゼンテーションの講評を受けた内容を再検討し、エスキスを進める。
第12回	ドローイング1	栗崎,X3	50分 エスキス指導を受けた内容を加えて案の検討を進める。	50分 ドローイングを進める。
第13回	ドローイング2	栗崎,X3	50分 ドローイングを進める。	50分 ドローイングを進める。
第14回	最終プレゼンテーションー講評会	栗崎,X3	50分 模型製作・最終プレゼンテーションの仕上げ。	50分 模型製作 講評にて指摘された事項を整理し、卒業研究への手掛かりとする。

〔到達目標,比率〕

[DP]	〔到達目標〕	〔比率〕
D(2)	各課題とも、適切な主題を見つけ、それを空間化することができる	30%
D(3)	与えられた条件から、自らテーマを設定し、建築空間を的確に表現できる	30%
D(6)	構造を意識しながら、限られた時間で集中して案をまとめ、プレゼン作成できる	40%

〔評価種別,比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
1~5課題	30%
6課題	70%

〔評価及び評価基準〕 @:テーマ・条件を自ら設定し、その解決案を的確かつ創造的に設計・製図ができる。
A:テーマ・条件を自ら設定し、その解決案を的確に設計・製図ができる。
B:テーマ・条件の設定に基づいて、その解決案を的確に設計・製図ができる。
C:テーマ・条件の設定に基づいて、その解決案を一部設計・製図ができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善	2013	978-4-621-07509-8
	コンパクト版建築史	「建築史」編集委員会編	彰国社	2009	978-4-395-00876-6

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	実習、フィールドワーク プレゼンテーション	第1~5課題の自主的演習(2~6回) 第7・11・14回の中間発表・講評会

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 一級建築士, 二級建築士, 木造建築士

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	構造	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	SAS311S 耐震構造設計			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	貞末 和史						
研究室	N2-220	メールアドレス	k.sadasue.hx@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 鋼構造建物と鉄筋コンクリート造建物について、構造設計の考え方と構造計算の手法を理解する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP2(思考・判断) D(3) 建築に関する安全性、機能性、経済性、快適性に関する諸問題に対する解決能力を身に付けている。
DP2(思考・判断) D(4) 建築技術者として直面する様々な課題に対して、合理的な解決策を提案する行動力を身に付けている。

〔履修条件〕 この科目を学ぶ前に、鋼構造学、鉄筋コンクリート構造学および建築振動学を履修することが極めて望ましい。また、構造物の力学的な取り扱いをするので構造力学、材料力学および構造解析法を十分理解しておく。

〔キーワード〕 構造設計、構造計算

〔履修上の留意事項〕 関数電卓を必ず持参する。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	構造設計と耐震設計		100分 教科書第1章第1～5節を熟読する。	100分 構造形式と構造種別について復習し、理解する。
第2回	各種構造設計法		100分 教科書第1章第6節を熟読する。	100分 構造設計法の種類について復習し、理解する。
第3回	鋼構造の構造計画		100分 教科書第2章第2節(1)～(3)を熟読する。	100分 鋼構造建築物の構造計画書のレポート作成。
第4回	鋼構造の荷重と外力の算定		100分 教科書第2章第2節(4)を熟読する。	100分 鋼構造建築物の荷重と外力算定のレポート作成。
第5回	鋼構造の柱・梁断面の仮定と応力検定		100分 教科書第2章第2節(5)～(6)を熟読する。	100分 鋼構造建築物の応力算定と断面設計のレポート作成。
第6回	鋼構造の変形の検定		100分 教科書第2章第2節(7)を熟読する。	100分 鋼構造建築物の変形チェックのレポート作成。
第7回	鋼構造の接合部の設計		100分 教科書第2章第2節(8)を熟読する。	100分 鋼構造建築物の接合部の設計のレポート作成。
第8回	鋼構造のまとめ		100分 鋼構造建築物の設計に関して作成したレポートを熟読する。	100分 鋼構造建築物の構造計算書のレポートをまとめる。
第9回	RC構造の構造計画		100分 教科書第2章第3節(1)～(4)を熟読する。	100分 RC構造建築物の構造計画書のレポート作成。
第10回	RC構造の荷重と外力の算定		100分 教科書第2章第3節(5)～(6)を熟読する。	100分 RC構造建築物の荷重と外力算定のレポート作成。
第11回	RC構造の柱・梁断面の仮定と応力検定		100分 教科書第2章第3節(7)～(8)を熟読する。	100分 RC構造建築物の応力算定と断面設計のレポート作成。
第12回	RC構造の変形の検定		100分 教科書第2章第3節(9)を熟読する。	100分 RC構造建築物の変形チェックのレポート作成。
第13回	RC構造の基礎の設計		100分 教科書第2章第3節(11)を熟読する。	100分 RC構造建築物の基礎の設計のレポート作成。
第14回	RC構造のまとめ		100分 RC構造建築物の設計に関して作成したレポートを熟読する。	100分 RC構造建築物の構造計算書のレポートをまとめる。

〔到達目標, 比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(3) 各種構造の構造特性を理解し、建築物の安全性に関する諸問題を解決する方法を考案できる。 50%
D(4) 建築物の安全性に関する諸問題を構造計算によって検証することができる。 50%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
レポート 100%

〔評価及び評価基準〕 @: 鋼構造および鉄筋コンクリート構造について構造設計の手順を説明することができ、合理的な耐震設計を行うことができる。
A: 鋼構造および鉄筋コンクリート構造について構造設計の手順を説明することができる。
B: 鋼構造および鉄筋コンクリート構造のどちらか一方について構造設計の手順を説明することができ、合理的な耐震設計を行うことができる。
C: 鋼構造および鉄筋コンクリート構造のどちらか一方について構造設計の手順を説明することができる。
D: 未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
基礎からわかる建築構造物の設計 日本鉄鋼連盟編 オーム社 2008 ISBN4-274-10352-8

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
質問法 各回とも構造計算結果等について、相互で検討する。
その他 構造計画図、構造計算書のレポート作成を行なう。

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 一級建築士、二級建築士、木造建築士

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI201J 教育実習指導			履修区分	自由	単位数	1
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕「教育実習指導」は、本学で開講している「教育実習」と密接不可分の関係のものとして位置づけており、教育実習を効果的に行うための事前指導と事後指導から成り立っている。大学において修得した教科や教職に関する専門的な知識や技術を基に、教科と教職科目との統合や、教職科目相互間を統合させることにより、教育を行う上での総合的な知見を得るとともに、履修カルテを用いて、教育理論と教育実践との密接な関連を図り、自己評価をすることにより、教職に係る実践的力量的基礎を形成する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP2(思考・判断)	D(3)	—
DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
DP1(知識・理解)	D(1)	—

〔履修条件〕3学年までの教員の免許状取得のための必修科目はすべて受講しておくこと。

〔キーワード〕教育力 教職 授業力

〔履修上の留意事項〕「教育実習」を履修する者は必ず履修すること。
この授業は、事前指導は4月・5月、事後指導は11月に集中講義にて行う。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習の意義・目的・内容	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の意義・目的・内容について調べる。	100分 教育実習の意義・目的・内容についてまとめる。
第2回	教育実習生の勤務上の心得	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習生の勤務上の心得について調べる。	100分 教育実習生の勤務上の心得についてまとめる。
第3回	教育実習の心構え	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の心構えについて調べる。	100分 教育実習の心構えについてまとめる。
第4回	教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方について調べる。	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方についてまとめる。
第5回	学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)について調べる。	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)についてまとめる。
第6回	学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)について調べる。	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)についてまとめる。
第7回	特別活動と生徒指導の全体計画について	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 特別活動と生徒指導の全体計画について調べる。	100分 特別活動と生徒指導の全体計画についてまとめる。
第8回	教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)について調べる。	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)についてまとめる。
第9回	教材研究、学習指導案の作成	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教材研究、学習指導案の作成について調べる。	100分 教材研究、学習指導案の作成についてまとめる。
第10回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)についてまとめる。
第11回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)についてまとめる。
第12回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)についてまとめる。
第13回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)についてまとめる。
第14回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」) 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題に関する討論、履修カルテを用いた振り返りとまとめ	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)について調べる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)についてまとめる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題についてまとめる。

〔到達目標, 比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(1)	教育実習を行うにあたり、教育実習生の心得や留意点を把握・理解するとともに、教師の職務内容を理解する。	30%
D(3)	教材研究の方法や学習指導案の作成の基礎を理解し、併せて授業実習の方法と内容に関する知識や技術を修得する。	30%
D(8)	履修カルテによる振り返りを通して、教育実習の成果と課題をまとめるとともに、教師の職務を認識し、教職の意義を理解する。	40%

〔評価種別, 比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
レポート	20%
授業中の課題	30%
模擬授業の指導案	20%
模擬授業の教育技術、指導態度	30%

〔評価及び評価基準〕

@:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてすべて説明することができるとともに、とくに優れた模擬授業ができる。
A:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてほぼ説明することができるとともに、優れた模擬授業ができる。
B:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてある程度説明することができるとともに、基本的な模擬授業ができる。
C:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術について一部説明することができるとともに、最低限の模擬授業ができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

[教科書]	[タイトル] 高等学校学習指導要領 「教育実習ガイド」テキスト 教育実習履修簿 工業・理科・情報に関する教科書	[著者名] 文部科学省 竹野英敏	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[参考書]	[タイトル] 各教科学習指導要領解説	[著者名] 文部科学省	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[能動的学習の 授業手法]	[手法] ロールプレイング Project-Based Learning	[実施授業回等] 第9回～第12回 第9回～第14回			
[授業改善点など]					
[関連する資格]	高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業) 中学校教諭一種免許状(理科)				
[備考]					
[参考URL]					

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI204J 教育実習(高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「教育実習(高)」は、実際の学校教育現場で実習校の指導教員等の指導・助言を得て、教育の実体験を通して教育に関する理解を深めるとともに、教員になるための基礎的能力・技術や態度を身に付ける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP2(思考・判断) D(4) -
 DP3(技能・表現) D(6) -
 DP4(関心・意欲・態度) D(8) -

〔履修条件〕 3年次までに教育職員免許法等に定められた本学で開講されている所定の科目・教科に関する科目・教職に関する科目の単位を修得するとともに、4年次において「教育実習指導」の事前指導を受けている者が、「教育実習」を履修することができる。

〔キーワード〕 授業力 教職 学習指導 実践力

〔履修上の留意事項〕 教育実習校の指導に従うこと。
 「教育実習(高)」については、高等学校の免許状のみを取得しようとする者が履修することになる。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第2回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第3回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第4回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第5回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第6回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第7回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第8回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第9回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第10回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第11回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第12回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第13回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第14回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理

〔到達目標, 比率〕
 [DP] [到達目標] [比率]
 D(4) 学校教育の実際に関して、各種体験を通して体得する。 30%
 D(6) 大学において修得した所定の科目、教科に関する科目、教職に関する科目を基礎に実践的指導力を養う。 30%
 D(8) 教員の役割を経験に基づき認識し使命感を深めるとともに、教員としての自己の能力や適性について自覚する。 40%

〔評価種別, 比率〕
 [評価種別] [比率]
 教育実習履修簿 50%
 教育実習校評価 50%

〔評価及び評価基準〕
 @:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 A:おおよそ、教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 B:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、6割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 C:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、5割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
 教育実習の手引き 竹野英敏

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
 ロールプレイング 第1回～第14回

〔授業改善点など〕

[関 連 す る 資 格] 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

[備 考]

[参 考 U R L]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	TET402J 教職実践演習(中・高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 教科に関する科目に加え、教職に関する科目を学び、かつ教育実習を経験した学生に対して、学校現場の教育活動に対応した実践的な教育能力の習得する。そのために、授業は教職論、学習指導、生徒指導、学級経営、組織・協働の5領域について、演習(グループ討議、現場授業観察、模擬授業・実習、ロールプレイ等)を主体に実施し、教員に期待される資質・能力の向上とその理解をする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP2(思考・判断)	D(3)	—
	DP3(技能・表現)	D(5)	—
	DP3(技能・表現)	D(6)	—
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
	DP2(思考・判断)	D(4)	—

〔履修条件〕 教員免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕 教職 模擬授業 授業観察

〔履修上の留意事項〕 授業は原則として教職担当専任教員で担当し、チームティーチング等の連携・協力体制により行う。併せて、授業の一部においては、専門領域の学識を生かす協力体制を教科に関する科目担当専任教員の参画を得て構築するとともに、現職の教員、教育委員会等の指導主事等を招聘し、教育現場の実践に即した講義・演習を実施する。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	全体オリエンテーション他(教職実践演習のねらい・基本方針・指導内容等:講義と個別活動)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教職実践演習について調べる。	100分 教職実践演習についてまとめる。
第2回	望ましい教員像(教育実習での課題の確認と解決について:グループ考察、発表、全体討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育実習での課題の確認と解決について調べる。	100分 教育実習での課題の確認と解決についてまとめる。
第3回	フィールドワーク準備(第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組み:グループ考察、グループ討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについて調べる。	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについてまとめる。
第4回	フィールドワーク(学校現場における教育活動観察:各テーマに対する実践的取り組みに学びグループ討議・指導)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校現場における教育活動観察について調べる。	100分 学校現場における教育活動観察についてまとめる。
第5回	学校教育の現状について学ぶ(教育委員会等の指導主事等を招聘し講義・質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校教育の現状について調べる。	100分 学校教育の現状についてまとめる。
第6回	本学の地域教育活動から学ぶ(地域教育活動事例の発表、質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 地域教育活動について調べる。	100分 地域教育活動についてまとめる。
第7回	先端技術と教育AV機器の活用法(IT教材活用と注意点、最先端AV機器等)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育AV機器の活用法について調べる。	100分 教育AV機器の活用法についてまとめる。
第8回	教材研究と指導案(発問・板書・学習形態に視点:グループ討議、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 発問・板書・学習形態について調べる。	100分 発問・板書・学習形態についてまとめる。
第9回	模擬授業と授業研究その1(学習過程と発問に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習過程と発問について調べる。	100分 学習過程と発問についてまとめる。
第10回	模擬授業と授業研究その2(学習の流れと板書に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習の流れと板書について調べる。	100分 学習の流れと板書についてまとめる。
第11回	求められる生徒指導力その1(問題行動への対応<事例分析>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 問題行動への対応について調べる。	100分 問題行動への対応についてまとめる。
第12回	求められる生徒指導力その2(不登校生への対応<カウンセリングマインド>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 不登校生への対応について調べる。	100分 不登校生への対応についてまとめる。
第13回	学校経営計画と校務分掌(事例研究<各分掌目標の作成と達成ロードマップ>グループ考察、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校経営計画と校務分掌について調べる。	100分 学校経営計画と校務分掌についてまとめる。
第14回	特別活動の意義と特別活動計画(各種行事)(質疑、グループ討議、全体発表) 実践的な教員となるために(履修カルテを用いた振り返りを通して、望ましい教員像具現化の自己課題:課題発表、グループ討議、レポート)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員について調べる。	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員についてまとめる。

〔到達目標,比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(3)	教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることを理解する。	20%
	D(4)	公平で受容的な態度で生徒に接することができ、信頼感に基づいた規律ある学級経営を行うことを理解する。	20%
	D(5)	授業を行う上での基本的な指導技術力(発問、板書、話し方等)を身に付ける。また、生徒の学習状況に応じた授業計画や学習形態を工夫することを理解する。	20%
	D(6)	履修カルテを用いた振り返りを通して、教職に係る実践的力を自己評価する。	20%
	D(8)	教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢を身に付ける。	20%

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	レポート	25%
	小課題	25%
	発表内容	25%
	ディスカッション	25%

〔評価及び評価基準〕 @:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
A:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、おおよそ基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
B:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、6割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
C:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、5割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
	高等学校学習指導要領解説	文部科学省	文部科学省		
	教職カルテ		広島工業大学		
	適宜資料を配付する。				

〔参考書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	教育実習完全ガイド		ミネルヴァ書房		

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	ロールプレイング	第9回～第12回
	Think,Pair & Share	第2回～第4回, 第8回, 第13回～第14回

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

中学校教諭一種免許状(理科)

[備 考]

[参 考 U R L]